

(全国版)

大豆情報委員会だより

全中・全農・全集連主催 平成12年1月25日発行

1. 販売動向

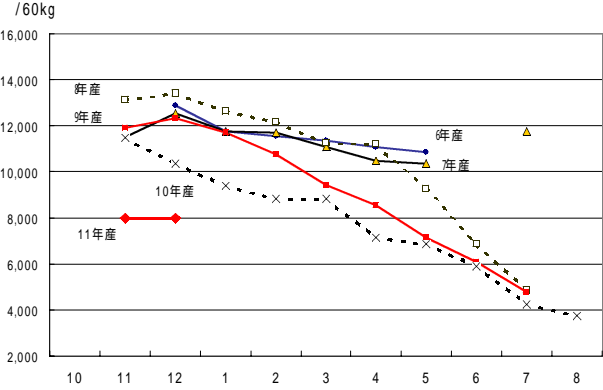
集荷見込数量の増加等を背景として、買い手側は様子見の状態。販売価格も低水準。

産地	品 種 銘 柄	入札販売数量(60kg俵数)		落札数量(60kg俵数)		落札平均価格(円/60kg)	
		11月	12月	11月	12月	11月	12月
北海道	小粒スズマル	16,276.0	38,205.5	420.0	4,457.5	8,013	8,523
北海道	大粒とよま刈	9,026.0	32,136.0	3,698.0	16,321.0	10,166	10,396
宮城	大粒タンレイ		1,715.0		1,715.0		8,551
秋田	大粒リュウホウ	150.0	940.0	150.0	0.0	7,300	0
庄内	中粒スズタカ	110.0	991.0	0.0	331.0	0	7,459
茨城	大粒タチナ ガハ		1,485.0		495.0		7,637
栃木	大粒タチナ ガハ	825.0	12,873.0	825.0	3,300.5	7,751	7,911
新潟	大粒エンレイ	2,703.0	5,557.5	1,815.0	2,290.5	7,191	7,126
富山	大粒エンレイ	6,934.5	8,595.0	5,119.5	5,460.0	7,793	7,569
石川	大粒エンレイ	1,944.0	1,953.0	972.0	654.0	6,638	6,702
福井	大粒エンレイ	823.0	2,151.5	330.0	1,635.5	7,175	6,974
鳥取	中粒タマ ホマレ		91.5		0.0		0
福岡	大粒フクユタカ		2,220.0		1,410.0		7,398
佐賀	大粒フクユタカ		1,060.0		1,060.0		7,530
佐賀	大粒むらゆたか		3,440.0		810.0		7,224

(注) 落札平均価格は、60キログラム当たりの包装代を含み、消費税及び地方消費税相当額を含まない産地倉庫戸前渡し価格(倉庫からの引取運賃・ユ・ザへの配送経費等は含まない価格)である。

増加が見込まれる集荷量を安定的に販売していくためには、早期に販売数量を確定させ、価格の「相場感」を形成することが必要。
11年産の集荷期限は、系統の努力目標として2月とし、販売動向を踏まえ、総手取額確保のため販売方針を抜本的に見直し。
12年産の生産計画策定作業を開始。

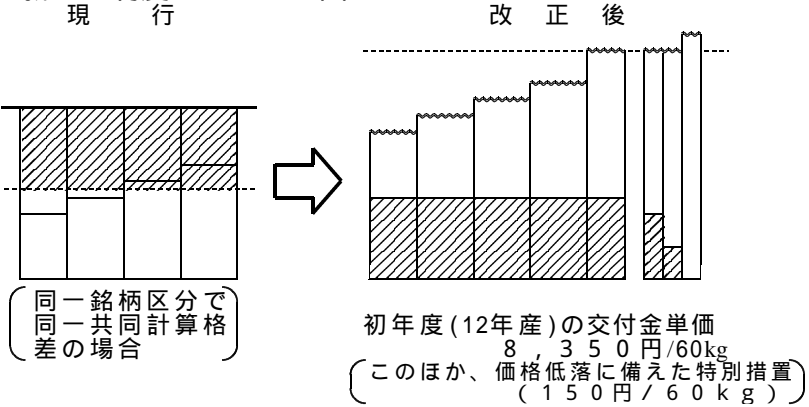
販売価格の推移(月別全銘柄平均)



2. 新たな交付金制度

基準価格保証の不足払システム から 市場価格反映の定額助成システム へ (共同計算も全銘柄一括ではなく、産地品種銘柄ごとの共同計算となります。)

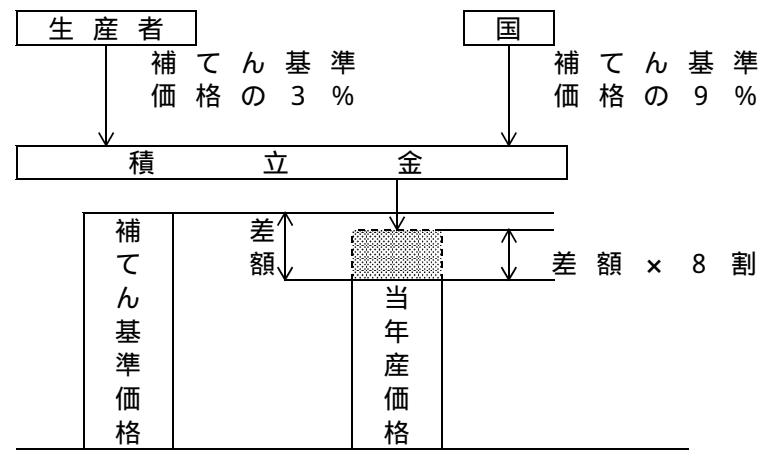
新たな制度のイメージ図



3.大豆作経営安定対策

価格低下が経営に及ぼす影響を緩和するため、稲作経営安定対策に準じた大豆作経営安定対策が導入されます。
大豆作経営安定対策と新たな交付金は一体として運用されます。したがって、交付金の交付を受けようとする生産者は、本対策への加入が必要です。
資金は稲作経営安定対策と同様、個人別に管理されます。

大豆作経営安定対策のイメージ図



4.販売体制の強化

これまでの販売は、全国団体が一元的に行っていましたが、今後は単協・経済連等を含めた多様な販売を展開します。
販売方法も入札取引に加え、相対取引、契約栽培等多様な形態をとることとします。
生産者団体としては、早期に販売方針・戦略を固めるとともに、実需側へ作付計画、販売計画等の情報を早期かつ的確に提供していくことが重要です。

(県版)

県産銘柄の全国的位置づけ (×月入札における上場対象銘柄中の価格順位)

銘柄中、				(参考)		
産は、第	位(販売価格	円/60kg)		最高販売価格	円/60kg(産)	
産は、第	位(販売価格	円/60kg)		平均販売価格	円/60kg	
産は、第	位(販売価格	円/60kg)		最低販売価格	円/60kg(産)	

県産銘柄の価格の推移

県産銘柄の販売状況

